



# GIGA スクール通信 vol.4



令和3年度から、GIGAスクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様へ、GIGAスクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGAスクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。

今後、授業を通して研修会を開催し、それぞれの学校の特色を生かしたGIGAスクールの取組が充実させられるようにしていきます。



▲新城小学校での研修会の様子

垂水市では、令和2年度からGIGAスクール構想の取組を充実させるため、情報教育部会を創設しました。市内各小・中学校から担当者が参加し、昨年度までは、GIGAスクール構想に関する講演会や、AIドリル「navi ma（ナビマ）」、「スクールライフノート（心の天気）」などの活用方法等を中心に研修してきました。今年度からは、実際に授業を通して研修を中心に進めていく予定です。6月3日には、今年度初めて、新城小学校で授業を通して研修会を実施しました。3・4年生と5・6年生の授業を提供していただき、タブレット端末を授業で活用する場面の工夫について、検討したり、情報共有したりしました。子供たちがタブレット端末を操作している姿から、「目標とする姿を確認できた」、「自分の学校でも早速試してみたい」等の活発な意見交換がなされました。渡邊GIGAスクールアドバイザー（鹿児島女子短期大学准教授）からは、授業（学習）において、課題を解決したり、他者に効果的に伝えたりするためのツール（ICT機器）を子供自身が選択するなど、子供の姿を踏まえて主体的な学びを実現するための視点や授業におけるタブレット端末の活用方法について指導・助言をいただきました。

## 子供たちの姿から学ぶ

### 牛根小学校『家庭と連携したGIGAスクールの推進』

『牛根小らしいGIGAスクール』とは、「児童のみならず、保護者（家庭）を引き込み、保護者の理解を得ながら、タブレット端末を利活用して個別最適化された家庭学習をより一層充実させること」です。

今年度は、学校だけでなく各家庭において、もっとGIGAスクールについて理解を深めてもらい、更に深化・発展させられるよう『家庭と連携したGIGAスクールの推進』をテーマに掲げ、家庭と共に深めるタブレット端末の活用を中心に据えて、特色ある実践を進めて参ります。

有り難いことに本市は他の市町村に先駆け、タブレット端末を持ち帰らせ活用させています。本校児童もほぼ毎日持ち帰り、授業の振り返りや家庭での調べ学習、AIドリルなどを使って、一人一人に応じた（個別最適化された）その日の復習等に取り組ませています。その様子を、是非保護者にも見てもらい、「そんなこともできるんだね」、「その先はどうするの？」等、子供たちが意欲的に学ぶ姿を認めたり、励ましたりしながら、自己肯定感が高められるように適切に関わってほしいと願っています。

保護者から「今はタブレットは文房具であり、昔では想像できない学びの大きな変革に驚いている」という声をよく伺います。だからこそ、保護者の理解を深め、互いに連携しながら、牛根小らしいGIGAスクール構想を推進していく必要があると考えています。これからも保護者のいろいろな声を受け止め、子供たちのためのよりよい実践に結び付けていきます。



▲家庭学習で端末を活用している様子



公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師の皆様にご協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4カ月に1回、皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

## 思春期の娘さんのために、親として「今」できる事 ～子宮頸がんワクチンというプレゼント～

**現** 在思春期のあなたの娘さんお孫さんが、もし20代で子宮頸がんを発症してしまったら…？  
子宮頸がんが20～40歳代の女性に増えています。進行がんになるまで無症状ですので、妊娠して初めて産婦人科を受診した時に、妊娠中の子宮にがんが見つかる女性もいます。子育て中に忙しさからがん検診を受けず、更年期に不正出血で受診した時には進行がんという女性も多いです。

オーストラリアでは、2028年には新規の子宮頸がん患者はほぼいなくなると予想されているのに対し、日本では子宮頸がんで泣く女性が増え続けています。なぜでしょうか？

WHOは、①15歳までのHPVワクチン接種、②定期的な子宮がん検診、③早期に診断治療を行う、の3つを9割以上の方が受ける事で、子宮頸がんは30年後撲滅できるとシミュレーションしています。①のHPVワクチンとは子宮頸がんワクチンのことです。日本でも2013年から定期接種に追加され、小学校6年～高校1年の女子は無料でワクチンを接種することができます。しかし接種率は1%未満であり、多くの女性が「がんから子宮を守るチャンス」

を逃しています。約10年前、子宮頸がんワクチン接種後に運動機能の障害や慢性の痛みなど「多様な症状」をきたした若い女性の映像が、テレビで頻回に放映されたことを覚えていらっしゃる方も多いでしょう。その際、精査のため国が積極的勧奨を中止しました。その後の国内・国外での調査で、このような「多様な症状」は思春期に時々発症するものであり、子宮頸がんワクチンとの直接の関係性は無いと判明しました。子宮頸がんワクチンは世界中で安全なワクチンとして認められており、2020年には90以上の国で国家プログラムとして接種され、子宮頸がんの予防効果も証明されています。

2022年4月より、国内外で安全性と有効性が確認されたこと、副反応が生じた時の診療体制も整ったことから、子宮頸がんワクチンの積極的な接種の呼びかけを再開することが決まりました。

接種のお知らせが届いたご家庭は、正しい知識のもと、娘さんの子宮頸がんワクチン接種を前向きにご検討ください。正しい知識を得るには、「子宮頸がん」とHPVワクチンに関する正しい理解のために」という日本産科婦人科学会のサイトがお勧めです。2013年以降ワクチン接種を受けなかった方も、接種のチャンスがありますので調べてみてください。



今村総合病院産婦人科専門医  
貴島 佳子

「一人でも多くの鹿児島の女性に幸せになって頂きたい」をモットーに、産科・婦人科疾患を中心に患者様に寄り添った診療を行っている優しい先生です。仕事・子育て・介護と頑張る女性の心身の不調に対する女性漢方療法が好評です。

詳しくは、日本産科婦人科学会のHPをご覧ください。



関係 保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138